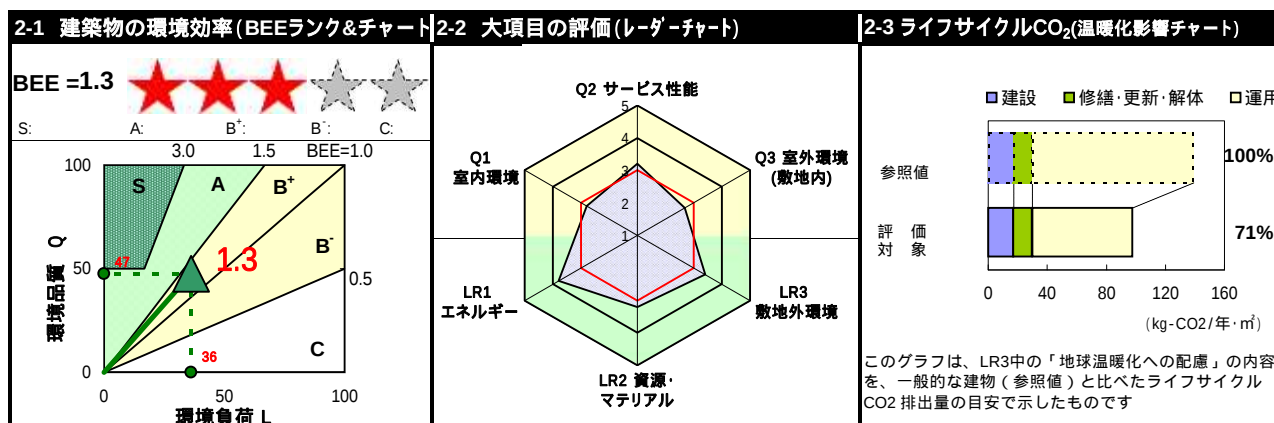


CASBEE[®] 新築[簡易版]

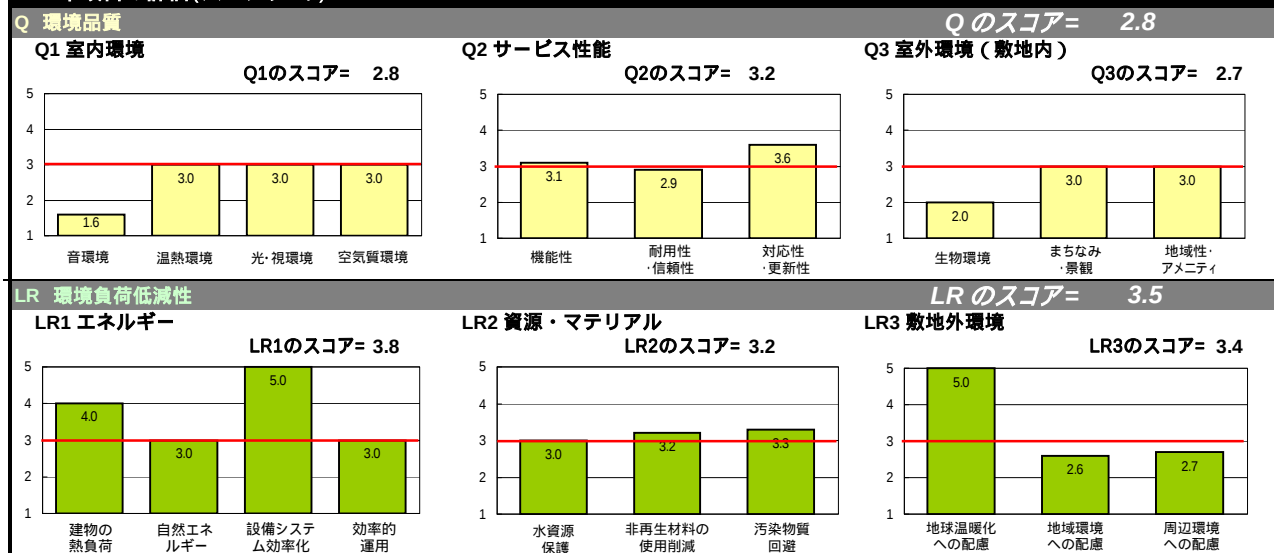
評価結果

■ 使用評価マニュアル: CASBEE-新築(簡易版) 2008年版 使用評価ソフト: CASBEE-NCb_2008(v.3.2)

1-1 建物概要			1-2 外観	
建物名称	(仮称) ビバモール座間新築工事	階数	2F	
建設地	神奈川県座間市	構造	S造	
用途地域	準工業地域	平均居住人員	2,700 人	
気候区分	地域区分	年間使用時間	4,380 時間/年	
建物用途	物販店、工場、	評価の段階	実施設計段階評価	
竣工年	2011年10月 予定	評価の実施日	2011年1月17日	
敷地面積	28,907 m ²	作成者	(株) 鴻池組東京本店	
建築面積	15,789 m ²	確認日	20010/11/17	
延床面積	23,247 m ²	確認者	(株) 鴻池組東京本店	



2-4 中項目の評価(バーチャート)



3 設計上の配慮事項

総合		その他
断熱性の良い外壁材の使用、自然エネルギーの利用など、省エネルギーに配慮した商業施設設計画とした。		0
Q1 室内環境	Q2 サービス性能	Q3 室外環境(敷地内)
建材はシックハウス対策としてFを採用し、室内空気の汚染を防いでいる。	バリアフリー新法の建築物移動円滑化基準を満たし、不特定多数の来客者に配慮した。売場の天井高を3.6m以上確保。	特に敷地東側に開発緑地をまとめて確保することにより、既存校並木と一体となった緑空間を提供。敷地周囲に面して緑地を確保し、防犯性を考え見通しの良いフェンスを境界沿いに設置。
LR1 エネルギー	LR2 資源・マテリアル	LR3 敷地外環境
自然エネルギーの変換利用を考慮し、ソーラーパネルを設置。	スタッドを採用し、解体時における再利用性及び廃棄による二酸化炭素の増加に抑制をかけている。節水型小便器の採用。	雨水については原則敷地内処理とし、オーバーフロー分のみ公共下水へ放流する計画とする。騒音規制法に定める現行の規制基準以下に抑えられる荷捌きの位置、作業開始終了時間を配慮。

- CASBEE: Comprehensive Assessment System for Built Environment Efficiency (建築環境総合性能評価システム)
- Q: Quality (建築物の環境品質)、L: Load (建築物の環境負荷)、LR: Load Reduction (建築物の環境負荷低減性)、BEE: Building Environmental Efficiency (建築物の環境効率)
- 「ライフサイクルCO₂」とは、建築物の部材生産・建設から運用、改修、解体廃棄に至る一生の間の二酸化炭素排出量を、建築物の寿命年数で除した年間二酸化炭素排出量のこと
- 評価対象のライフサイクルCO₂排出量は、Q2、LR1、LR2中の建築物の寿命、省エネルギー、省資源などの項目の評価結果から自動的に算出される
- LCCO₂の算定条件等については、「LCCO₂算定条件シート」を参照されたい